

日本医史学雑誌 第四十八卷 第四号 目次

原 著

故松原三郎博士遺品中の一文書、イディッシュ語で書かれた医史学史料……………泉彪之助・正橋剛二……………五二
 日本におけるファン・スウィーテン水の受容……………高橋 文……………五七
 On the Background of Engelbert Kaempfer's Studies of Japanese Herbs and Drugs ……Wolfgang Michel……………二〇
 研究ノート

大正三年、東京における発疹チフスの大流行について——防疫行政面からの一考察……………渡部 幹夫……………五九
 ひ ろ ば

田代和生著『江戸時代朝鮮薬材調査の研究』へのコメント——科学史の立場から
 提出されている史料を読む……………山田 慶兒……………六七

資 料

池田文書の研究(二十四)……………池田文書研究会……………六三
 手塚良斎「医学所御用留」(五)……………深瀬 泰旦……………六四

追 悼

さようなら、古川 明先生……………金山 知新……………六五
 矢数道明先生を偲ぶ——その足跡……………小曾戸 洋……………六七

杉先生のご逝去を悼む……………七木田文彦・瀧澤利行……………六一

記 事

例会記録

日本医史学会史資料供覧……………岡田 靖雄……………六四
 また江戸幕府寄合医師添田玄春の日々の暮し……………深瀬 泰旦……………六六
 日本における義肢装着者の生活援護史研究……………坪井 良子……………六七
 相州小田原の医史片々……………中西 淳朗……………六九

書籍紹介

杉浦守邦 『カルテ拝見 武将の死因』	蔵方 宏昌	六七〇
坪井良子 『日本における義肢装着者の生活援護史研究』	篠田 達明	六七二
杉立義一 『お産の歴史』	石原 力	六七三
杉本つとむ 『江戸の阿蘭陀流医師』	中西 淳朗	六七五
野間祐輔 『二宮敬作と彼をめぐるひとびと』	萩山 正治	六七七
酒井シヅ 『病が語る日本史』	杉立 義一	六七八
外山幹夫 『医療福祉の祖 長与専斎』	中西 淳朗	六七九
文庫めぐり		
高知県立牧野植物園牧野文庫	真柳 誠	五七四
津山洋学資料館	石田 純郎	五九六

日本医史学雑誌 第四十八巻総目次

《本号の表紙絵》

「物狂い」

(風俗画報、1910年2月)

能では、神を迎える「よりしろ」である笹が「狂女」の持ち物となっている。説教節『小栗判官』でも照手姫が小栗の病を治そうとして「笹の葉に幣をつけ、心はものに狂わねど、姿を狂気にもてない」と熊野本宮の湯の峰へ連れ行く情景が描写されている。近世の『誹風柳多留』においても「気違いは絵に書くときは笹を持ち」と詠んでおり、手に持つ笹の記号的な意味は中世・近世人の常識となっていたようである。
(新村 拓)